

今こそ語る! L.A.メタル

シンポジウム/パネリスト

広瀬和生、増田勇一、ポール・ショーティノ

Live&Symposium

ライブ/出演

ポール・ショーティノ

〈Guitar〉Jun Senoue[Crush 40] 〈Guitar〉Nozomu Wakai[Destinia, Mari Hamada]

〈Bass〉Shoyo[CROSS VEIN] 〈Drums〉Louis Sesto[SOUL DOCTOR]



広瀬和生

世界屈指のヘヴィメタル専門誌「BURRN!」の編集長。東京大学工学部卒の落語評論家でもあり、アーティスト、バンドに対する視点は常に鋭い。



増田勇一

L.A.メタル全盛 80 年代中盤より BURRN! 編集部に在籍 (副編集長)、その後 MUSIC LIFE 編集長を経てフリーの音楽評論家として独立し一線に活躍する。HM に限らず洋楽・邦楽幅広くカバーし、BS フジ「ロックの魂〜 SOUL of ROCK」などメディア出演もしている。



ポール・ショーティノ

ROUGH CUTT、その後 QUIET RIOT、KING KOBRA にも在籍するなど、常に高い評価を得ながら L.A.メタル・シーンをリアルタイムで駆け抜けた実力派シンガー。そのソウルフルな歌声に当時も今もポール・ショーティノ・ファンは多く、2016 年現在も円熟味を増しながら輝きを放ち続けるアーティストである。



Guitar : Jun Senoue [Crush 40]



Guitar : Nozomu Wakai [Destinia, Mari Hamada]



Bass : Shoyo [CROSS VEIN]



Drums : Louis Sesto [SOUL DOCTOR]

芸術総監督おすすめコメント

1980年代「L.A.メタル」今から30年以上も前のことになりますが、ヘヴィメタルが世界規模の音楽マーケットの中で確固とした地位を確立したのもこのムーヴメントによるものと言っても過言ではありません。モトリー・クルー、ラット、ドッケン等々、恐らくどこかでバンド名や彼らの曲は耳にしたことがあるはず。当時ロスに拠点を置いてなくても、多くのバンドが成功するために音楽、ファッションがL.A.メタル化していました。今回、ポール・ショーティノをゲストに迎えるのは、彼がラフ・カット、クワイエット・ライオットに在籍していた、というだけでなく、当時も、現在も彼が真の実力を持ったシンガーだからなのでは言うまでもありません。異常なほどのブレイク、また、きらびやかな成功の裏にコマーシャリズムに翻弄され、墮落していった、あるいはムーヴメントの衰退により消えたバンド、ミュージシャン達が殆どの中、シンガーとして常に評価され、シーンを駆け抜け、現在も現役の彼だからこそ証言できることがあると思います。そのポールの興味深い話を広瀬氏、増田氏が引き出してくれるシンポジウムもご期待頂きながら、ライブではポールの"あ"の声、さらに燦銀の様な渋さを増した"あ"の声がトップクラスのメンバーを従えてラフ・カット、クワイエット・ライオットの名曲を再現します!そして、嬉しいことに"STARS"も聴けそうです!!是非1日限りの鋼鉄フェスVol.2にご参加ください。

東海市芸術劇場芸術総監督 安江正也

※やむを得ない事情により出演者、プログラムが変更になる場合がございますので予めご了承ください。